溝上慎一の教育論（動画チャンネル） No427
（実践の紹介）

社会を耕す授業デザイン
―歴史教育の実践から立ち上げる学びと教室空間―
内野真秀先生（[静岡県]富士市立高等学校）

溝上　慎一　　Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

https://smizok.com/
E-mail　mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

（ご紹介）



内野 真秀
うちの まさひで

（静岡県）富士市立高等学校 教諭
（地歴公民科・企画研究課）

大学では地域経済学について学ぶ。
2014年～　静岡県立川根高等学校 勤務
2019年～　富士市立高等学校 勤務
探究授業の設計、探究文化の醸成

現在の探究Mission
共有された知識をもとに、自己と他者の関係性を用いながら意味をつくる。そこに居る一人ひとりが活きる授業・学校空間の創造。

溝上慎一の教育論（動画チャンネル） No427
（実践の紹介）

社会を耕す授業デザイン
―歴史教育の実践から立ち上げる学びと教室空間―
内野真秀先生（[静岡県]富士市立高等学校）

溝上　慎一　　Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

https://smizok.com/
E-mail　mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。
※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

No427 （実践の紹介）

歴史は初発の問いを促しやすい

統合的な理解・総合的な発揮を促す高校日本史の授業づくり



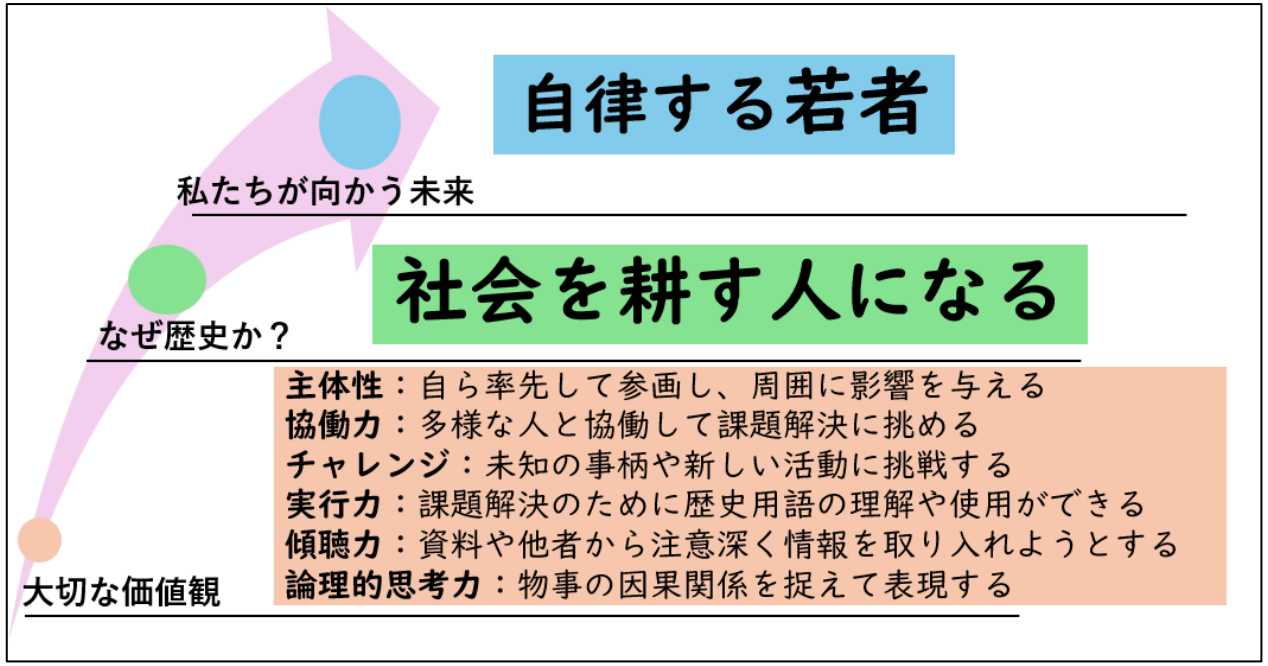
文科省批判をして取り組めないことを正当化するな！

それではご覧ください

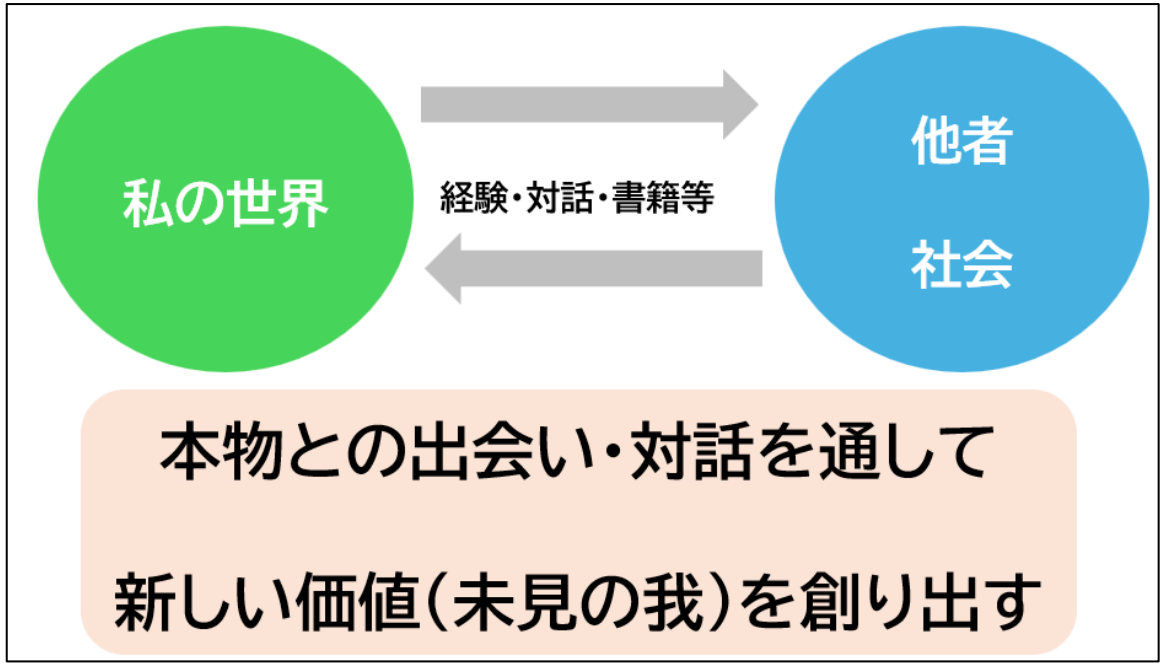
社会を耕す授業デザイン

―歴史教育の実践から立ち上げる学びと教室空間―

富士市立高等学校　内野真秀



私の授業観



富士市立高校の探究

出典：本校資料

「先生、鉄砲が伝来した時
どうして日本人とポルトガル人は
意思疎通できたんですか？」

何度も学ぶ“歴史用語”



「第一次世界大戦」

「鎖国」

「江戸の三大改革と田沼政治」

を知っているとは？

歴史の授業「初発の思考」を持ちやすい

学ぶとは

学び方	歴史での学習	数学（三角形の面積）での学習
知識を正確に早く	年号や用語をドリルで反復暗記する	公式を覚えて、ドリルを反復練習する
理由や仕組みを説明	原因と結果を図や矢印で整理する	平行四辺形の半分だから「÷2」だと論理的に整理する
自分なりの考えを持つ	資料を読んで、自分で推理・考察する	図形を切ったり貼ったりして、自力でひらめく
多様な視点	友達と意見を交換したり、議論する	友達と解き方を教え合ったり、議論したりする

出典：本校資料

もともと“歴史用語を覚える”ことを目的にしていない

言葉として脳内にあるのではなく、文脈として“ある”

「認識」をゆさぶる（日本史探究）

MQ　なぜ田沼の政治は「改革」と言われないのだろう？

享保の改革、田沼の政治、寛政の改革

固有の知識を比較・検討して、

江戸時代の「よい政治」という概念の再構築

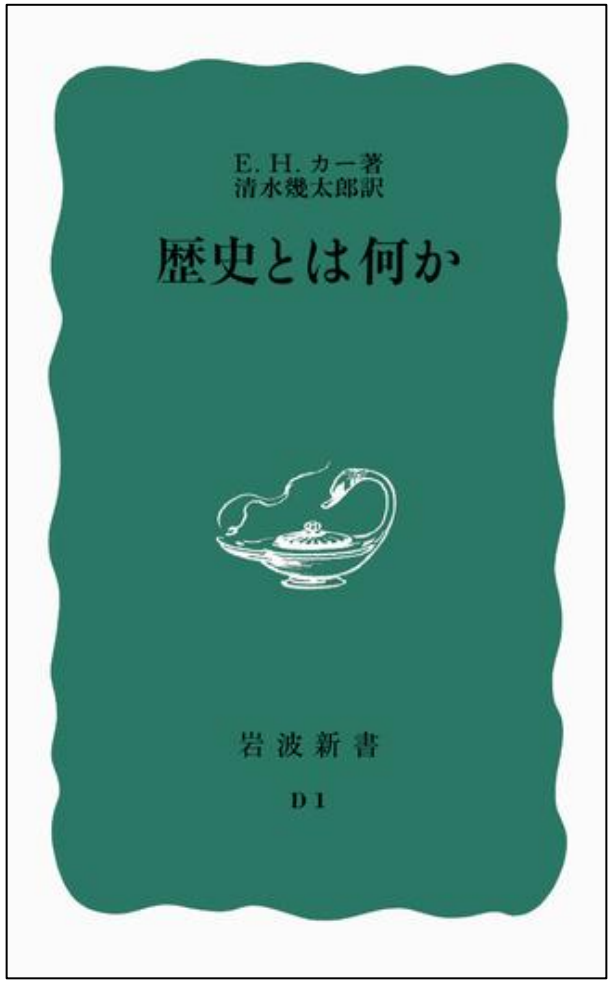
“知っている”の状態が変化

概念を覚える？構築する？

~~概念を覚える~~

個別知識 → 関連づけ → 歴史認識・概念の構築

歴史とは何か？



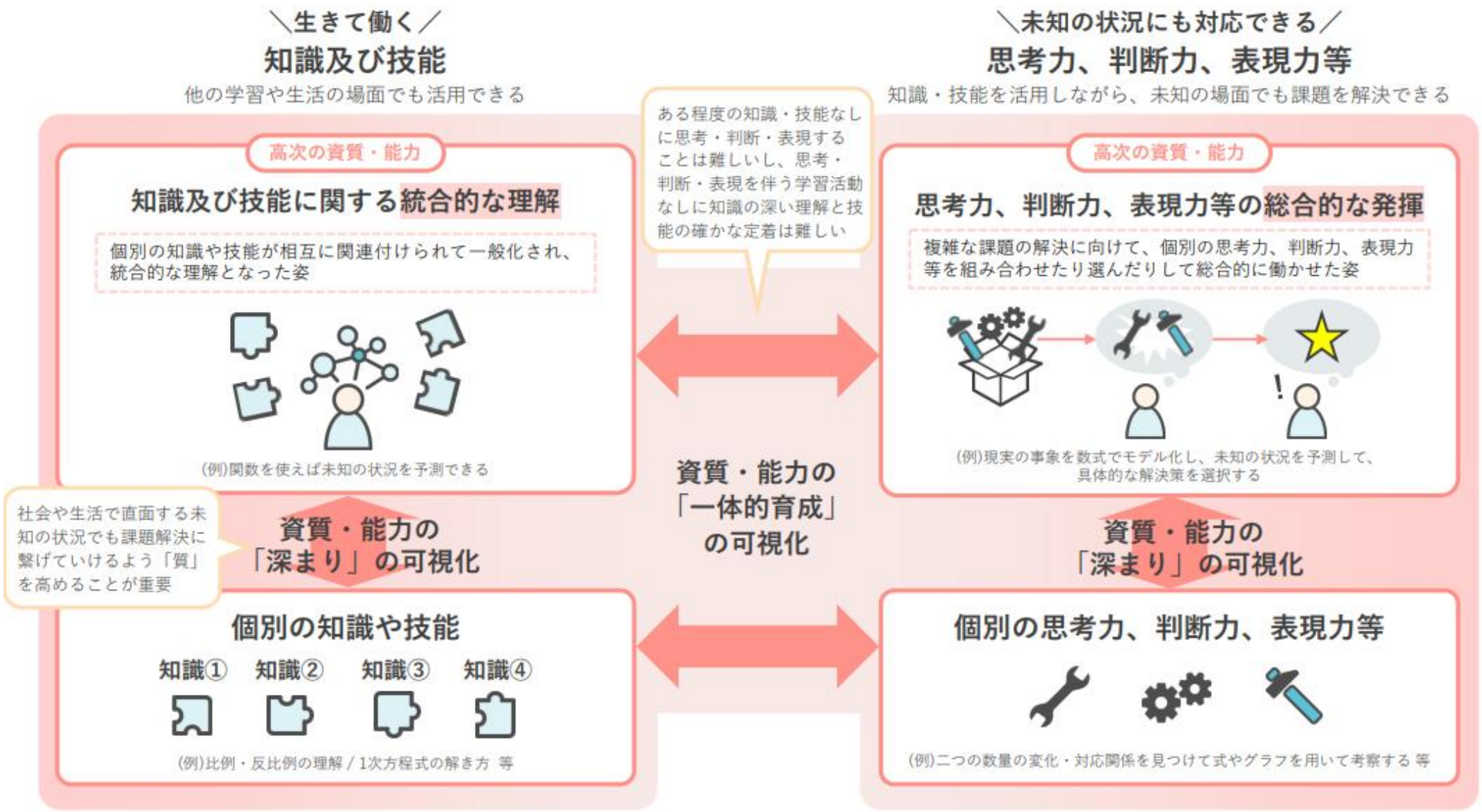
『現在と過去との間の

尽きることを知らぬ対話』

E.H.カー著　清水幾太郎訳『歴史とは何か』岩波新書、1962年、p.40

関係性によって解が変化

統合と総合



出典：教育課程企画特別部会 論点整理（令和７年９月25日）

知識はつながり、ナラティブになる

スキーマ

関連あるもの同士が結びついて構造化。特定の内容について形成された知識の集まり※

知識・技能の統合的理解

メンタルモデル

自分の置かれた問題状況に合わせて説明のために知識を縦横無尽に組み合わせてモデル（言語）化※

思考力・判断力・表現力等の総合的発揮

※参考：大島純、千代西尾 編『主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック』北大路書房、2019年、 p４－８

授業デザイン観

学習内容のデザイン

知識の構造化



適切な知識・技能が統合できるSQを設定
用語理解や史資料の活用
→歴史への誠実性



学習者集団のデザイン

対話環境・場の整備

生徒が知識・技能を獲得しつつ、MQへ向かうプロセス。メンバーや教材で生まれる対話　→関係性と見方・考え方を活用

どんな問いがいいの？

再生課題

「説明する、思い出す、定義する、リストアップする、図を描く」といった単純な課題。
教師が教えたことや資料に書かれた知識・スキルを生徒に問う。※

推論課題

持っている知識を適用、結びつけながら新しい「構成」を作り直すことを促す問い。
深い理解につながる。
学習到達度に応じた調整が必要。※

単純な再生課題から始めて、推論課題へとつなげていく※

※参考：ジェフ・ペティ 著　緒方広明 日本語版監修　岡崎義弘 訳『科学的エビデンスに基づく最適の教え方』東京書籍、2025年、 p 30 - 36

概念を活用する(歴史総合)

MQ　明治時代はいつ「明治」になったのか？

３時間のPBL

①30分程度で教師から全体概要の説明（基本事項の確認）

②“国民統合”“国境・外交”“立憲国家”の３つの視点でＳＱを解き明かす

③それぞれの立場からＭＱへの解答を持ち寄る

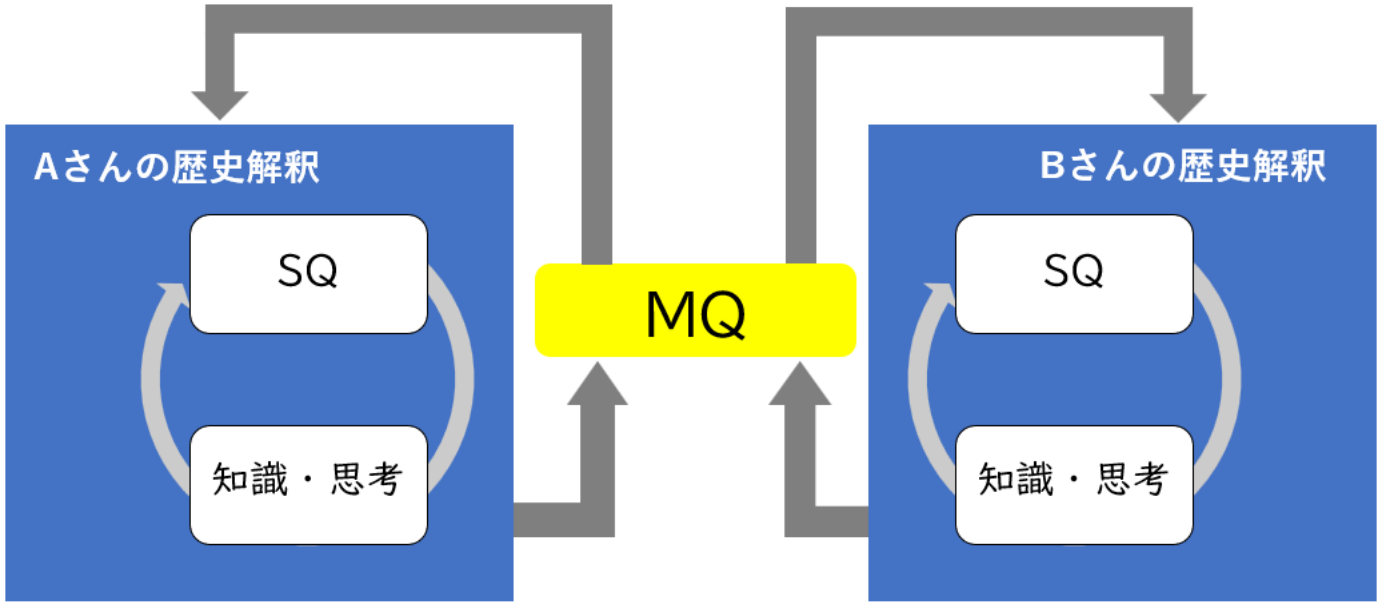
④持ち寄った解答を踏まえて、チームで解答を創る

⑤全体共有とフィードバック

各視点では教科書や史資料の読解を通して、それぞれの歴史認識（概念）を構築

知識を持ち寄る

- 誰かが、どこかに正しい唯一の答えがあるわけではない。チームメイトの視点を持ち寄って、限界まで選択肢を精査しよう
- 私たちは微力であって、無力ではない



多様性を包摂する教室



『「深層のダイバーシティ」――一見同じように見える日本人同士の中にもさまざまな価値観があり、こうした「多様性の壁」を話し合いの力で解決していく必要がある。』

引用：中原淳『「対話と決断」で成果を生む話し合いの作法』PHPビジネス新書、2022年、 p 76

知っていることだけがすごいのか？

「先生、鉄砲が伝来した時
どうして日本人とポルトガル人は
意思疎通できたんですか？」

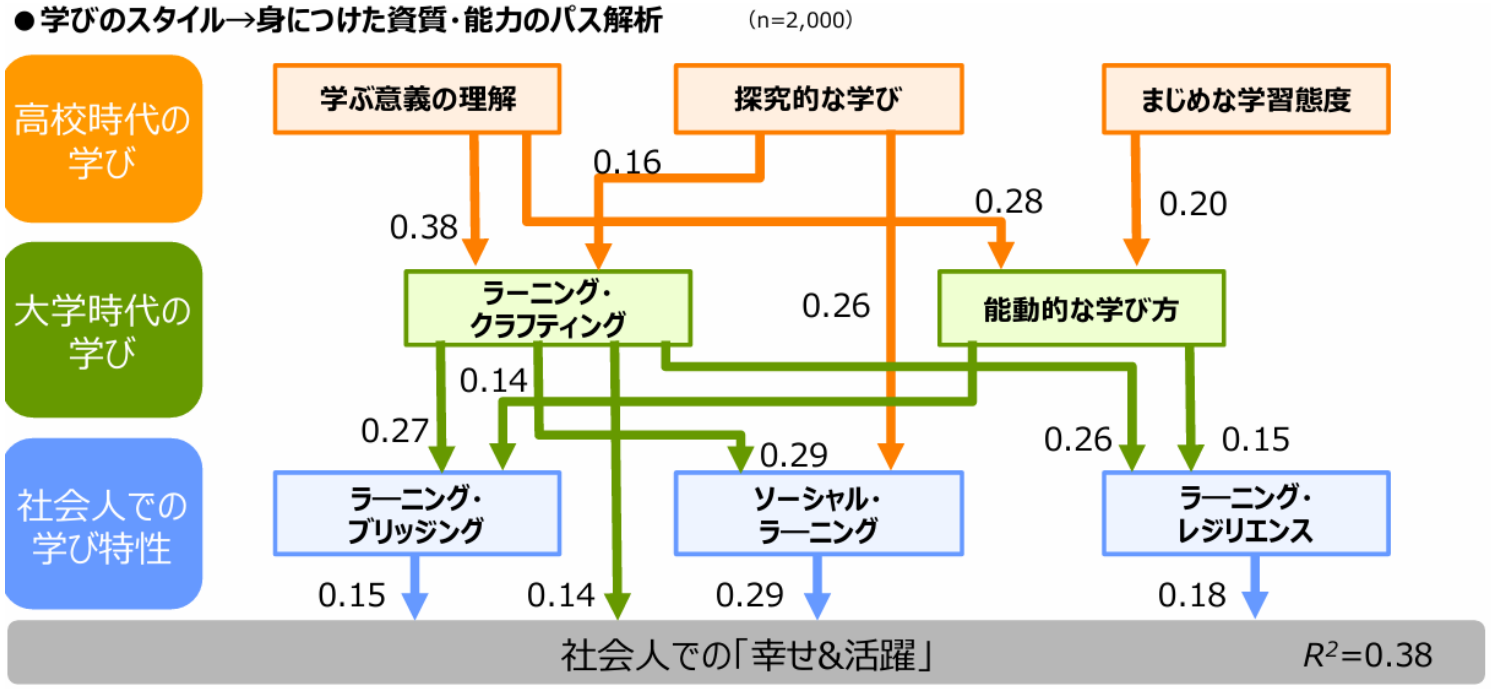
知識の多少だけではなく、
視点や価値観の持ち寄りが
学びの場を豊かにする

誰もが歴史の主体となることができる（歴史授業の民主化？）
生徒が自己の一部を歴史とつなげて、相互作用の中で概念を構築

改定審議との接点

	歴史学へ正対する	多様性の包摂
デザインするもの	学習内容のデザイン →何を知識として構成するのか	コミュニケーション空間のデザイン →「そこに居る」を認め合う
手段	再生課題を中心とするSQ	推論課題を中心としてチームで解答するMQ、授業の制約・ルール・対話
生みだされるもの	個人の歴史的事実・知識・解釈	関係性の中で合意を通して形成される新たな知識
発揮するもの	学問としての知性 →社会への誠実性	コミュニケーション・リーダーシップ →社会への創造性
アセスメント	小テストや定期考査	フィードバック・定期考査・ポートフォリオ・リフレクション
接点	知識・技能の統合的な理解	思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮

ラーニング・クラフティング



自分の考えを深め、学びと社会や将来をつなげるなど、学びを意味づけすること

出所：パーソル総合研究所・ベネッセ教育総合研究所・中原淳「若年就業者のウェルビーイングと学びに関する定量調査」
https://rc.persol-group.co.jp/wp-content/uploads/thinktank/data/hatachikara.pdf （2026.8.11閲覧）

なにを学んだか？（日本史探究）

Q　この授業で私は何を（なぜ）学んでいる？

生徒の回答を生成AIで分析すると・・・

傾向①
現在は過去の選択の積み重ねによって形成されている。

傾向②
歴史上の出来事は、人々の選択と社会的条件の相互作用によって生じる。

傾向③
過去の選択を理解することは、現在の選択肢を考える手がかりになる。

傾向④
歴史を学ぶことは、過去を知るだけでなく、現在と未来を考えることである。

社会を耕す担い手(日本史探究)

Q　「社会を耕す」とは？

生徒の回答を生成AIで分析すると・・・

①社会を「与えられたもの」ではなく、「人々がつくってきたもの」と捉える
歴史を通して、現在の社会が人々の選択や積み重ねから形成されたことを理解

②今ある社会をそのまま受け入れず、問い直す
課題や矛盾に気づき、新しい視点から社会や自分の認識を見つめ直す

③知識を「考え、判断するための土台」として使う
過去の人々の選択や失敗を、現在・未来を考える手がかりにする

④考え、対話し、行動する
自分なりの考えを持ち、他者と考えながら、社会に働きかける

⑤未来の社会・次の世代につながる土台をつくる
今をよりよくするだけでなく、次の世代が社会をつくる可能性を広げる

おわりに

- ここがゴールではないし、迷いもあります。。。
- この授業だけがすべてではない。だからこそ・・・
- マインドとゴールを共有した教員集団による多様な授業
- 現在の授業と地続きの次期指導要領

過去を手掛かりに現在を問い直し、
未来を共に構想する共創空間として教室